

## 二次交通専門部会事業概要

バス、タクシー、レンタカー等の二次交通については、特に、訪日旅行における各調査において、多くの不満が顕在している状況にある。<sup>※1※2</sup>

二次交通の充実・強化は、旅行者を目的地に円滑に移動させるだけでなく、旅行者の満足度の向上、現地における滞在時間の増大のために必要不可欠であり、国内観光振興の面においても、受入環境整備として非常に重要である。

旅行形態の個人旅行化と、訪日旅行客の国内各地域への移動範囲の広がりに伴い、二次交通自体の整備やこれに伴う情報インフラの整備は、観光関連業界、運輸関連業界、DMO等にとって特に関心の高い分野となっている。さらに、二次交通整備の打開策として、自動運転やAIの二次交通への活用の検討が始まっており、この活用も含めて、平成31年度より観光立国推進協議会の中に二次交通専門部会を立ち上げ、モデル事業の実施等により、充実・強化を図っていく。

### 1. 平成31年度事業について

#### (1) モデル事業の実施

モデル地域を指定して、基礎調査や実証実験等を通じて当該地域における二次交通対策のあり方について検討を行ない報告書として取りまとめる。

#### (2) 二次交通専門部会の開催

年3回程度開催、モデル地域についての基礎調査や検証結果を専門部会において検討を行い、課題の把握や解決方策を検討する。

検討課題(例) 二次交通手段の継続性(採算性、利便性)

二次交通手段の告知と認知度向上

ICTやAIを活用した(マッチングシステム等)二次交通需要拡大策

#### (3) 全国共通パス情報の一元的集約並びに公開

関係各事業者の協力を得て、全国共通パス情報の一元的集約並びに公開を行う。また、情報の利活用の促進に向け、マスコミや出版社等広報関係機関への周知に注力する。引き続き関係機関へ、更新データの提供を依頼する。

- (4) 二次交通に関する先存取組事例の収集・共有化  
全国の各事業者、各地域の二次交通に関する先進的取組事例の収集・共有化を図る。
- (5) 自動運転についての取り組み事例の収集・共有化  
全国の AI を活用した自動運転に関して、実用化を前提とした実証実験事例も含めた情報収集と共有を図る。

## 2. 平成 29、30 年度調査内容

### (1) 全国共通パス情報の一元的集約並びに公開

各交通関係団体及び各企業の協力のもと、共通パス情報（利用範囲、有効期間、価格等）の一元的な収集を実施。なお、情報の収集にあたっては、国内旅行者、インバウンド旅行者向けとして、日本語と英語の 2 種類での情報の収集を行っている。

鉄道会社、バス会社、タクシー会社、高速道路会社等、48 社から協力頂きデータを整理し、HP 上で公開。

### (2) 二次交通に関する先存取組事例の収集

全国の各事業者、各地域で取り組んでいる二次交通の充実・強化策等について、その取り組み内容、多様な関係者との調整過程、事業費の調達元、取組にあたっての工夫、成果概要などをヒアリングし、先進的な取組事例として収集。HP 上で公開。

#### ※ 1 [訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関するアンケート結果（観光庁）]

- ・ 旅行中に困ったこととして、「施設等のスタッフとのコミュニケーションがとれない」「無料公衆無線 LAN 環境」「多言語表示の少なさ・わかりにくさ」が上位。
- ・ 公共交通の利用に関しては、「乗車方法がわかりにくい」、「価格が高い」、「案内看板・放送が分かりにくい」等の不満の声が多数。

#### ※ 2 [訪日外国人旅行者受入環境に関連する SNS への投稿等の分析結果（観光庁）]

- ・ ネガティブな内容を含む投稿は「公共交通」で最も多かった。
- ・ 公共交通に関する不満の声としては、「料金が高い」という声が全体の半数近くを占めている。料金以外不満では、「難しい」という声が多く、「乗り換え」「降りる場所の確認」「運転手とのコミュニケーション」の不満が多い。
- ・ 周遊パスへの高評価や推奨する声もある。